

理学療法学科在校生および卒業生の学校満足度調査

本多史明*1

要旨：本研究では玉野総合医療専門学校（以下、当校）理学療法学科の客観的な印象を分析し、入学生確保の戦略を検討する目的で、学校、学科に対する満足度調査を行った。調査対象は当校理学療法学科の在校生および過去 10 年の卒業生とし、Google Forms にて web 上でアンケートに回答してもらった。その結果、在校生 100 名、卒業生 101 名が回答し、カリキュラム、臨床実習、友人関係、教員との人間関係、学生食堂、進路に対する支援、さらに総合的な満足度の項目は概ね満足が高い結果となった。一方で、学校行事、相談体制、施設・設備、周辺環境、立地場所、交通の便、授業料、知名度や評価の項目については低い満足度となった。さらに、当校の周囲への推奨度も 50%程度に留まった。当校のポジティブな口コミを広げるためには、今後は満足度が低い項目の満足度を向上させること、紹介者や被紹介者への特典の準備、兄弟割引や成績に応じた学費免除など柔軟な料金体系を設定する等のコスト面での対策も必要である。さらに、人材不足解消に向けて、外国人留学生の受け入れなど抜本的な改善策を検討する必要もある。

キーワード：理学療法学科，在校生，卒業生，満足度，推奨度

はじめに

2024 年のわが国の出生数は、前年比 5.7%減の 68 万 6,061 人で、1899 年の統計開始以降初めて 70 万人を割り込んだ。出生数の減少ペースに明らかな加速が認められた 2016 年から 2023 年までの年平均の減少率は 4.0%であったことから、足元の減勢は極めて強い状況²⁾であると言える。また、1 人の女性が生涯に産む子どもの数に相当する合計特殊出生率は 1.15 で、前年の 1.20 を大きく下回り過去最低を更新した¹⁾。さらに、リクルート進学総研によれば 2024 年の 18 歳人口は 106.3 万人で、その後 2 年は若干増加するが、それ以降は減少に転じ、2035 年には 100 万人を切る³⁾と推定している。そして 2036 年には、ついに 94.2 万人（2024 年に比し 12.1 万人減）まで減少する³⁾と予測している。18 歳人口の減少は、高等教育機関である大学、短期大学、専門学校にとって入学者数の減少という法人存続にも関わる重大な問題である。また、人口減少のスピードは地域で大きく異なるため、地域の実情に合わせた高等教育の早急な改革が重要³⁾になってくる。

玉野総合医療専門学校（以下、当校）理学療法学科は、2015 年頃から受験者数の減少が顕著となったため、2020 年度の新カリキュラム改定に合わせて、スポーツトレーナー団体である National Strength and Conditioning Association（以下、NSCA）の認定校として、理学療法士国家資格だけでなく NSCA 認定スポーツトレーナー資格（Certified Strength and Conditioning Specialist：CSCS および NSCA Certified Personal Trainer：NSCA-CPT）も取得できるカリキュラムを配置した。結果として、当学科の 2020 年度入

*1 玉野総合医療専門学校 理学療法学科

学生は 40 名の定員を満たし、さらにその後の 2 年間も定員を充足することができた。このことを受けて、当校理学療法学科在校生（新カリキュラム対象者）に対し入学動機について調査した結果、NSCA 導入が入学生増加に寄与した可能性が示唆された⁴⁾。しかし、2023 年度から入学者数は再び緩やかに減少し、2025 年度入学生は 20 名（定員充足率 50%）まで落ち込んだ。全国に目を向けても、入学生が確保できないという理由で大学、短期大学、専門学校が閉校（募集停止）あるいは事業譲渡に追い込まれる事例が近年散見される。入学生が減少しているという現状は当校も例外ではなく、学校を存続させるためには入学生確保に向けた抜本的な対策が必要である。

現在、理学療法士養成校は全国に大学、短期大学、専門学校合わせて 277 校あり、定員は 14,929 名となっている⁵⁾。（2025 年 12 月 26 日現在）そのうち、昼間・夜間問わず募集停止している学校が 10 校存在する。（※募集停止校は専門職大学へ改組されるものも含む）岡山県内には当校含め 7 校の養成校があり、募集定員は全て合わせて 340 名にのぼる⁶⁾。近年そして未来の著しい 18 歳人口の減少を鑑みれば、岡山県内における養成校過多の感は否めない。さらに、労働人口減少による本邦の他業界の人材不足や理学療法士の待遇面などから、今後は理学療法士を目指す学生数が伸び悩むことも推察できる。こういった状況の中、近年は一部の大学を除いて、定員充足率低下とともに受験生はほぼ全入学の状態となっている。つまり、極端に言えば、受験生はどここの学校でも入学できるという状況であり、需要と供給の関係からも各学校は完全に選ばれる側となっている。その中で入学生を確保するためには、当然ながら広報戦略において当校の良さやストロングポイントを広く PR する必要がある。また、学校の認知度向上やイメージアップには在校生や卒業生の口コミなど、世間からの評価も疎かにはできない。そこで今回は、当校理学療法学科の在校生および卒業生の学校、学科に対する満足度調査を行うこととした。そのフィードバックから学校、学科の客観的な印象を分析し、学生に「選ばれる学校」になるための戦略を検討する資料としたい。

方法

1. 対象と倫理的配慮

当校理学療法学科の在校生 104 名（1 年生：20 名、2 年生：32 名、3 年生：22 名、4 年生：30 名）および過去 10 年間の卒業生 235 名（12 期～21 期生）を調査対象とした。対象者に対してはヘルシンキ宣言に則り、研究の目的や内容等十分な説明を書面にて伝え、同意を得た上でアンケートに回答してもらった。なお、研究に参加しない場合においても成績等で不利益を被らないことを保障した。また、アンケートは無記名回答とし、個人が特定できないように連結不可能匿名化とした。なお、本調査にあたっては玉野総合医療専門学校の承認（研究計画番号：2025001）を得て実施した。開示すべき利益相反はない。

2. 学校・学科満足度の調査方法

2025 年 10 月中旬に、当校理学療法学科の満足度調査をアンケートにて実施した。まず、アンケートは大学における卒業時満足度尺度項目⁶⁾をベースに、大学生の満足度を調査した 4 本の論文^{7~10)}を参考にフォーマットを作成した。さらに、専門職を養成する当校の特

色項目も加えたうえで編集し、学科専任教員 6 名が確認したのちに完成させた（別紙 1）。質問は 1.講義・資格・実習，2.学生生活や人間関係，3.各種支援体制，4.学校の生活環境等の 4 つの大項目に分類し，さらに大項目ごとに 5 つの質問を設定した。また，その他の項目として授業料，学校の知名度や評価，総合的な学校の満足度なども加えた。回答方法は 5 段階評定尺度法（5 件法）を用い，1.満足，2.どちらかといえば満足，3.どちらでもない，4.どちらかといえば不満足，5.不満足と設定した。最後に，「周囲に理学療法士を目指す人がいた場合，あなたは玉野総合医療専門学校を勧めますか？」という推奨度に関する問いを設定し，回答は 5 件法にて 1.強く勧める，2.勧める，3.分からない，4.勧めない，5.絶対に勧めないで選択してもらった。アンケートは Google Forms で作成し，web 上にて同意のもと無記名での回答とした。基本属性は所属期（卒業生は卒業期）および性別のみ調査した。卒業生に対しては各期代表から無料通信アプリ「LINE」グループを利用し，アンケートの URL を送付し回答してもらった。得られた回答をスプレッドシートにて集計し，項目ごとの満足度を度数で示した。

3. データ処理

研究参加の同意を得られた在校生および卒業生のアンケート結果から，回答した各項目の満足度および最後の設問の推奨度の割合を在校生，卒業生ごとにグラフ化して示した。満足度については 1.満足，2.どちらかといえば満足を「概ね満足」とし，4.どちらかといえば不満足，5.不満足を「概ね不満足」として，「どちらでもない」と合わせて 3 つの割合を表示した。また，推奨度については 1.強く勧める，2.勧めるを「勧める」，4.勧めない，5.絶対に勧めないを「勧めない」として，「分からない」と合わせて 3 つの割合を示した。

結果

全回答者（201 名）の内訳は，在校生 100 名，卒業生 101 名であった。在校生は 1 年生 19 名（回答率 95%），2 年生 29 名（回答率 91%），3 年生 22 名（回答率 100%），4 年生 30 名（回答率 100%）であった。卒業生は，各期代表に「LINE」グループからアンケートを拡散してもらったため，詳細な回答率は不明であった。（※過去 10 年間の卒業生人数は 235 名であった。）

1. 講義，資格，実習について

①カリキュラム（設置科目）の満足度は，在校生で「概ね満足」が 70%，「概ね不満足」が 5%，卒業生で「概ね満足」が 76%，「概ね不満足」が 5%であった（図 1）。②教員（非常勤講師含む）の満足度は，在校生で「概ね満足」が 55%，「概ね不満足」が 10%，卒業生で「概ね満足」が 81%，「概ね不満足」が 8%であった（図 2）。③NSCA 資格の満足度は，在校生（1～3 年生）で「概ね満足」が 90%，「概ね不満足」が 1%，4 年生および卒業生（20・21 期生）で「概ね満足」が 52%，「概ね不満足」が 17%であった（図 3）。④臨床実習の満足度は，在校生（4 年生）で「概ね満足」が 80%，「概ね不満足」が 3%，卒業生で「概ね満足」が 70%，「概ね不満足」が 10%であった（図 4）。⑤卒業論文研究指導の満足度は，在校生（4 年生）で「概ね満足」が 70%，「概ね不満足」が 3%，卒業生で

「概ね満足」が57%、「概ね不満足」が16%であった（図5）。

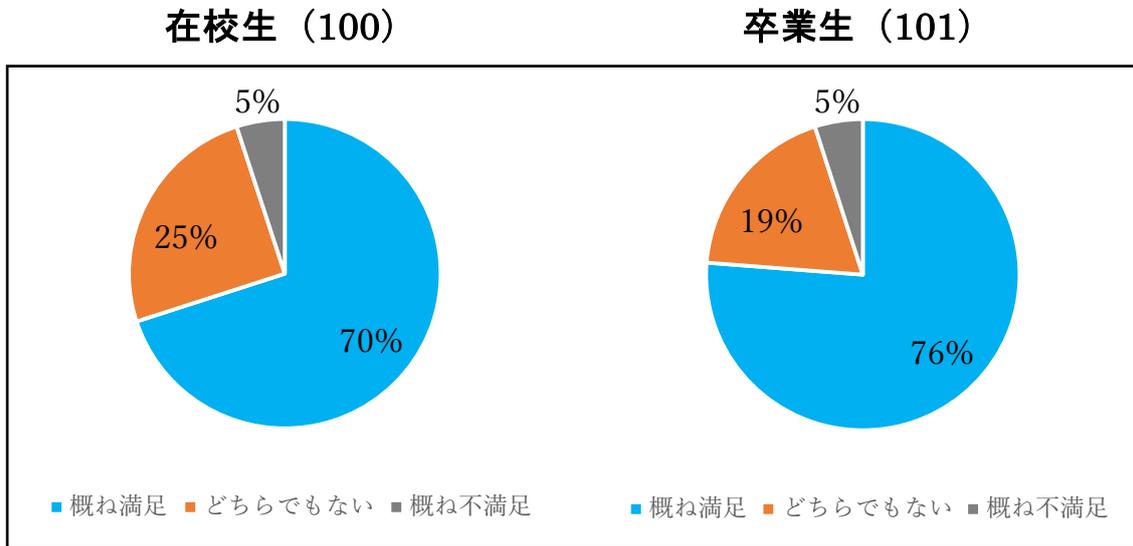


図1 ①カリキュラム（設置科目）の満足度

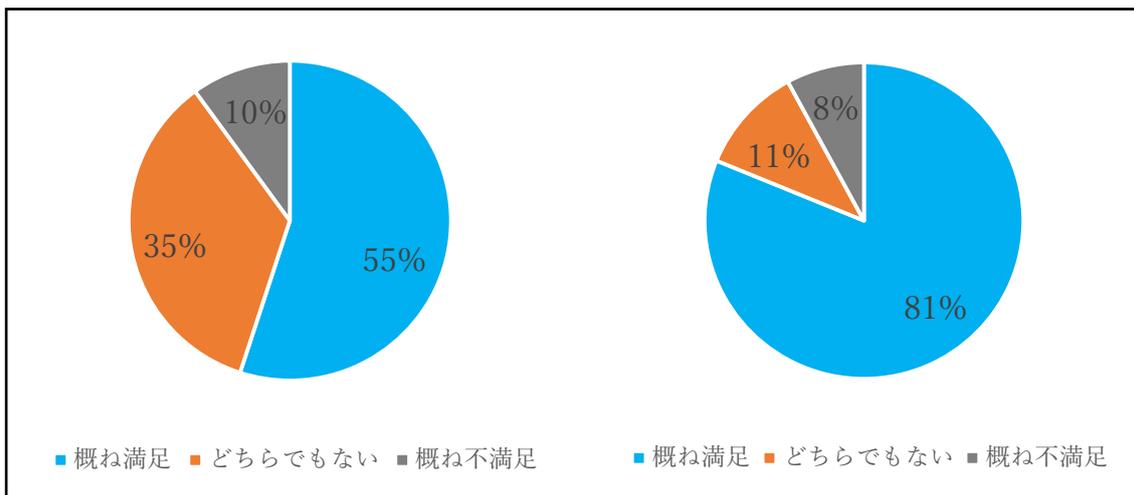


図2 ②教員（非常勤講師含む）の満足度

在校生 (100)

卒業生 (101)

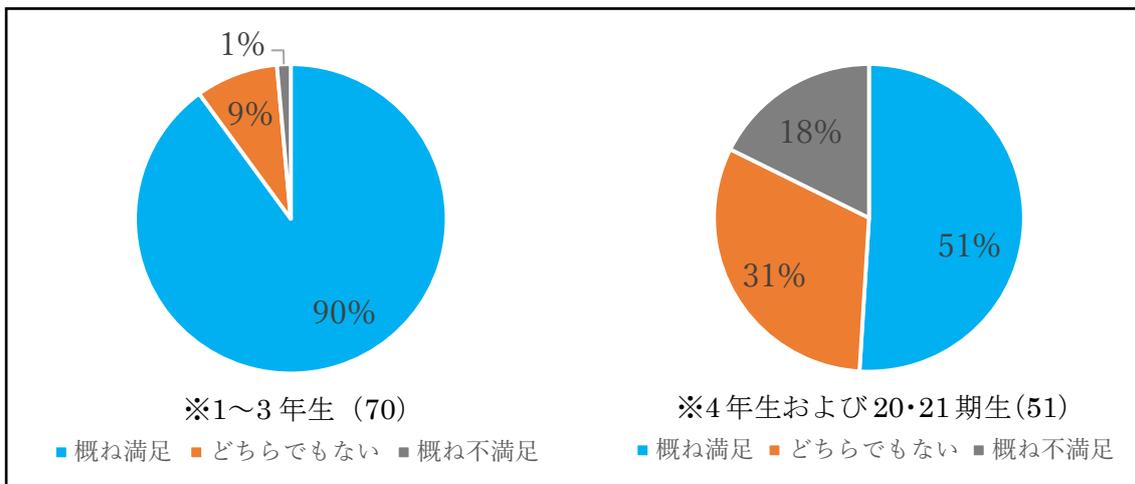


図3 ③NSCA 資格の満足度

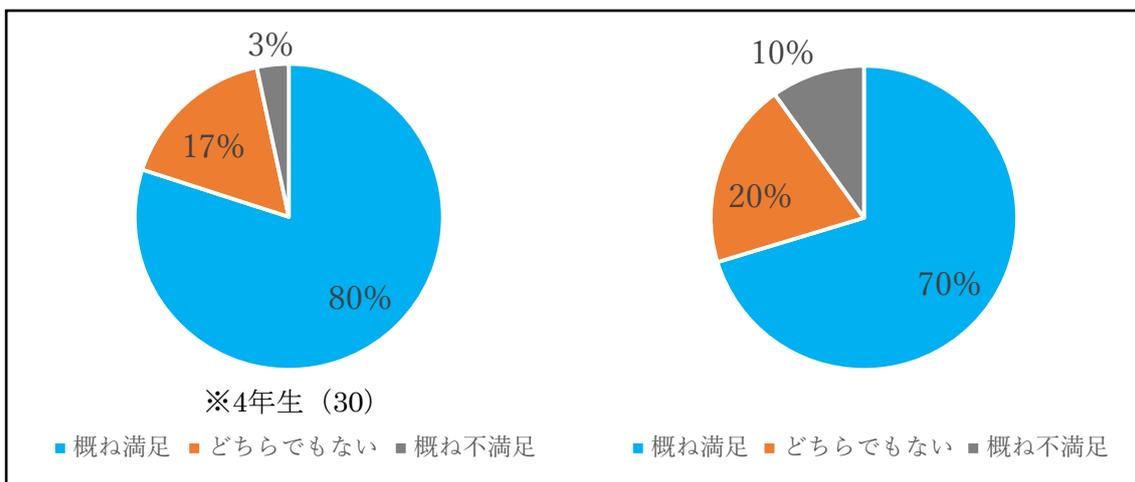


図4 ④臨床実習の満足度

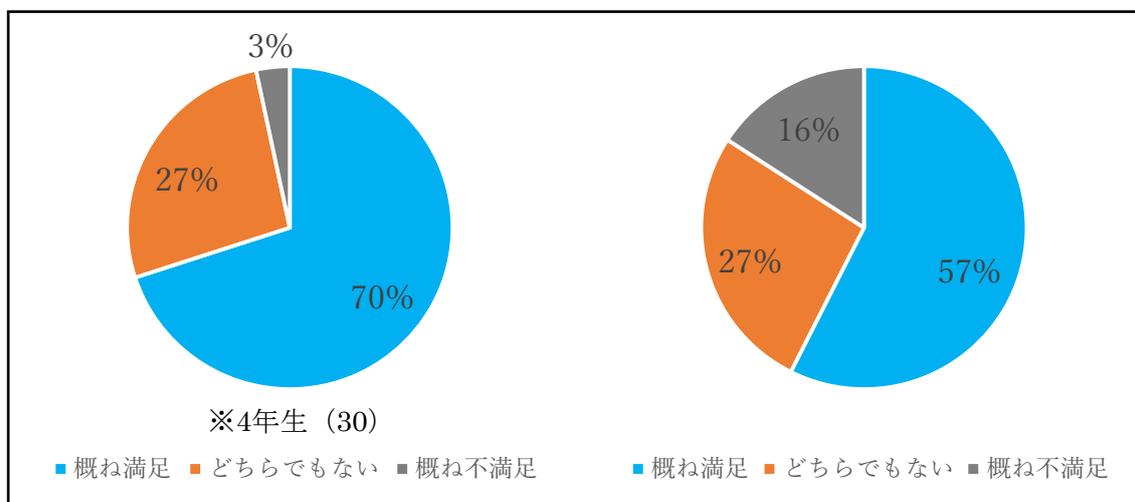


図5 ⑤卒業論文研究指導の満足度

2. 学生生活や人間関係について

①学校の友人関係の満足度は、在校生で「概ね満足」が76%、「概ね不満足」が3%、卒業生で「概ね満足」が88%、「概ね不満足」が2%であった（図6）。②教員との人間関係の満足度は、在校生で「概ね満足」が74%、「概ね不満足」が2%、卒業生で「概ね満足」が84%、「概ね不満足」が2%であった（図7）。③学校祭などの学校行事の満足度は、在校生で「概ね満足」が61%、「概ね不満足」が20%、卒業生で「概ね満足」が60%、「概ね不満足」が17%であった（図8）。④部・サークル活動の満足度は、在校生で「概ね満足」が44%、「概ね不満足」が3%、卒業生で「概ね満足」が56%、「概ね不満足」が7%であった（図9）。⑤学生食堂の満足度は、在校生で「概ね満足」が79%、「概ね不満足」が6%、卒業生で「概ね満足」が91%、「概ね不満足」が2%であった（図10）。

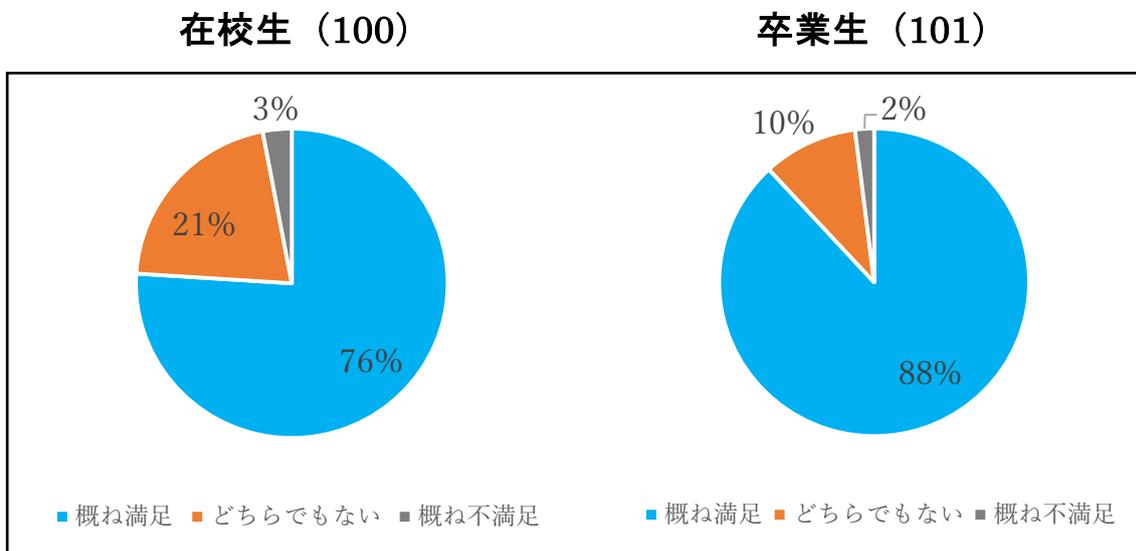


図6 ①学校の友人関係

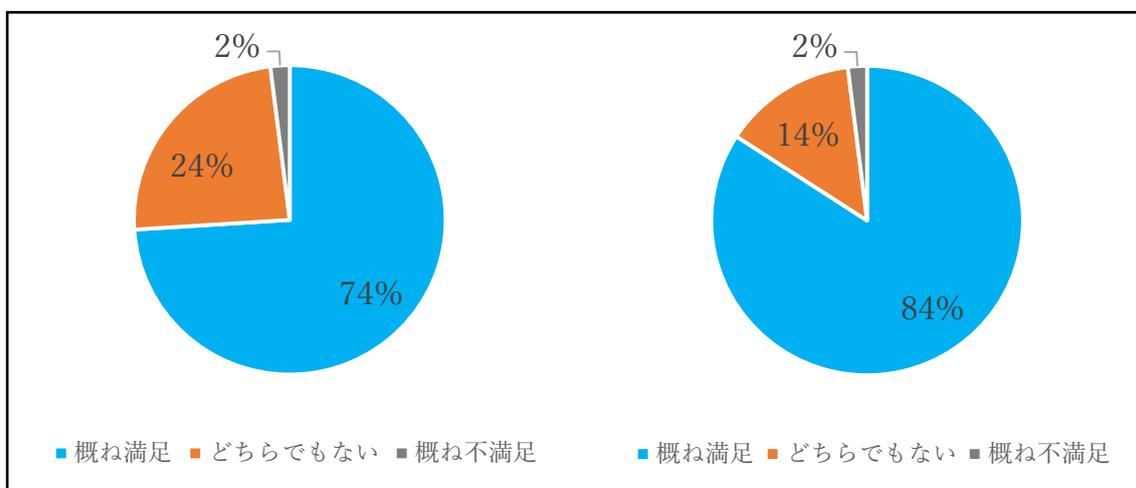


図7 ②教員との人間関係

在校生 (100)

卒業生 (101)

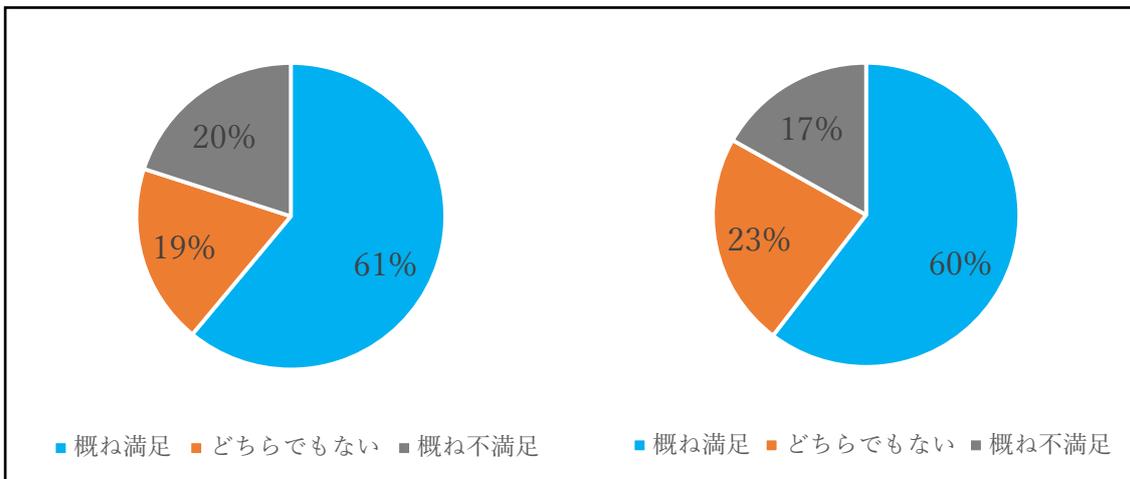


図 8 ③学校祭などの学校行事

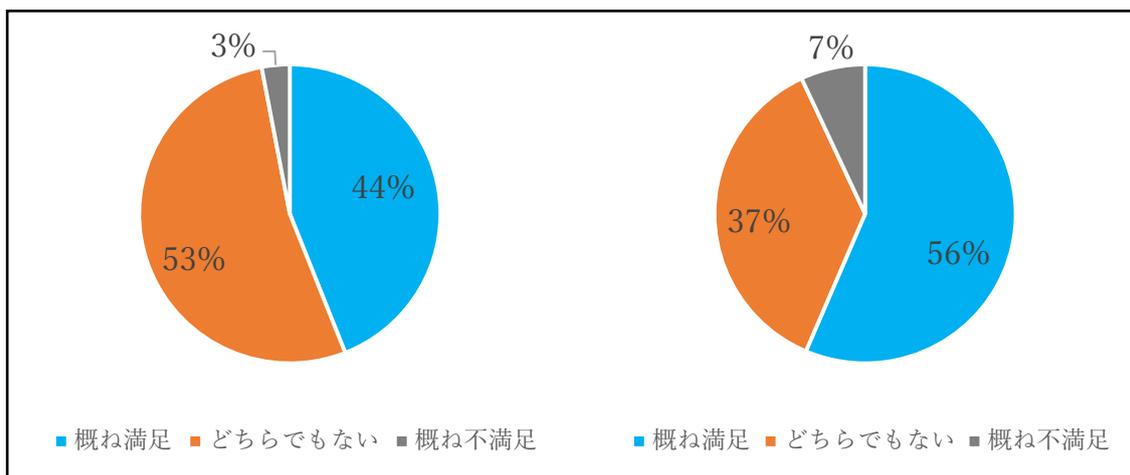


図 9 ④部・サークル活動

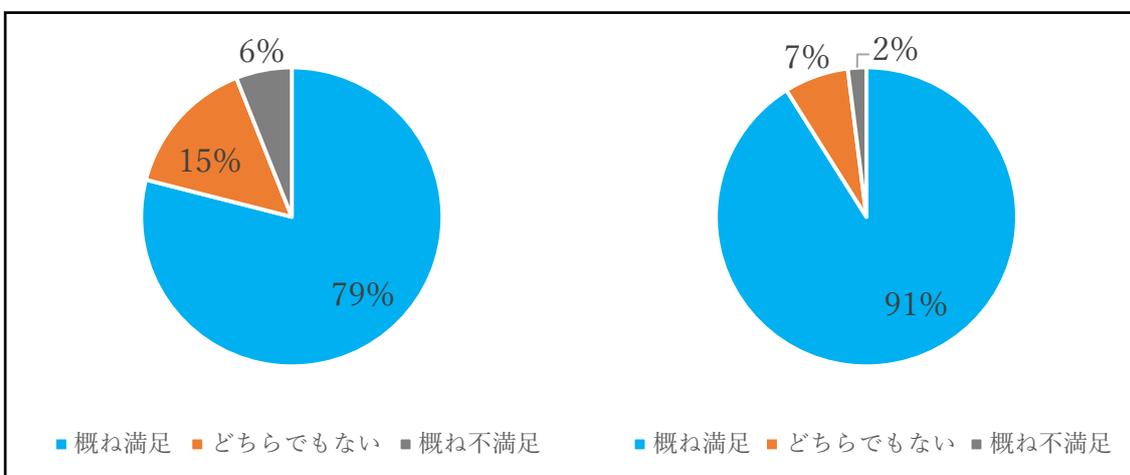


図 10 ⑤学生食堂

3. 各種支援体制について

①学業に対する支援の満足度は、在校生で「概ね満足」が67%、「概ね不満足」が4%、卒業生で「概ね満足」が71%、「概ね不満足」が7%であった(図11)．②進路(就職等)に対する支援の満足度は、在校生(4年生)で「概ね満足」が77%、「概ね不満足」が10%、卒業生で「概ね満足」が70%、「概ね不満足」が9%であった(図12)．③日頃の悩みや疑問等に対する相談体制の満足度は、在校生で「概ね満足」が56%、「概ね不満足」が3%、卒業生で「概ね満足」が65%、「概ね不満足」が7%であった(図13)．④臨床実習中のサポートの満足度は、在校生(4年生)で「概ね満足」が60%、「概ね不満足」が3%、卒業生で「概ね満足」が65%、「概ね不満足」が8%であった(図14)．⑤事務所の窓口対応の満足度は、在校生で「概ね満足」が83%、「概ね不満足」が0%、卒業生で「概ね満足」が69%、「概ね不満足」が5%であった(図15)．

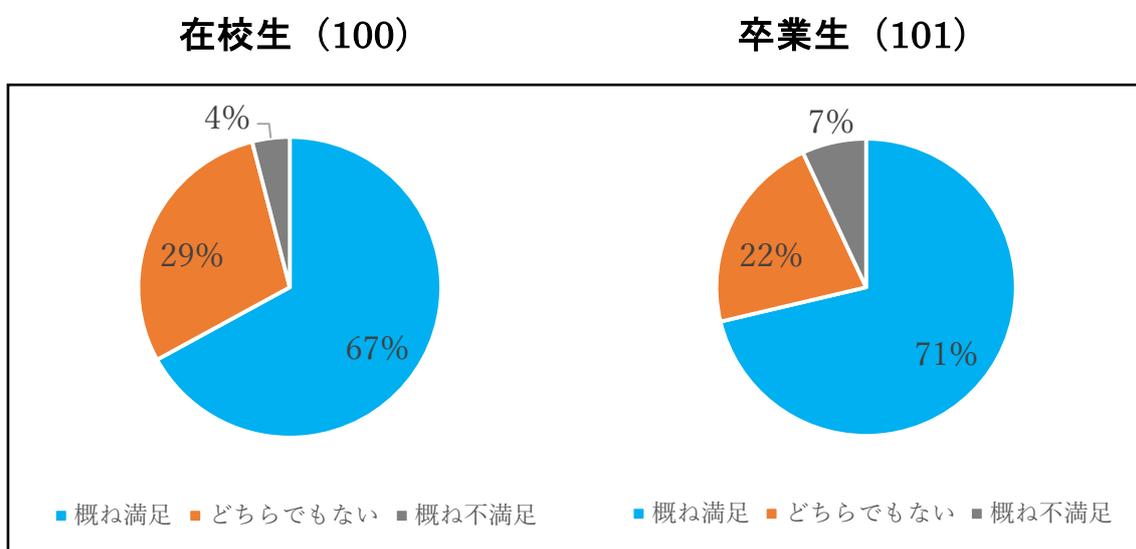


図11 ①学業に対する支援

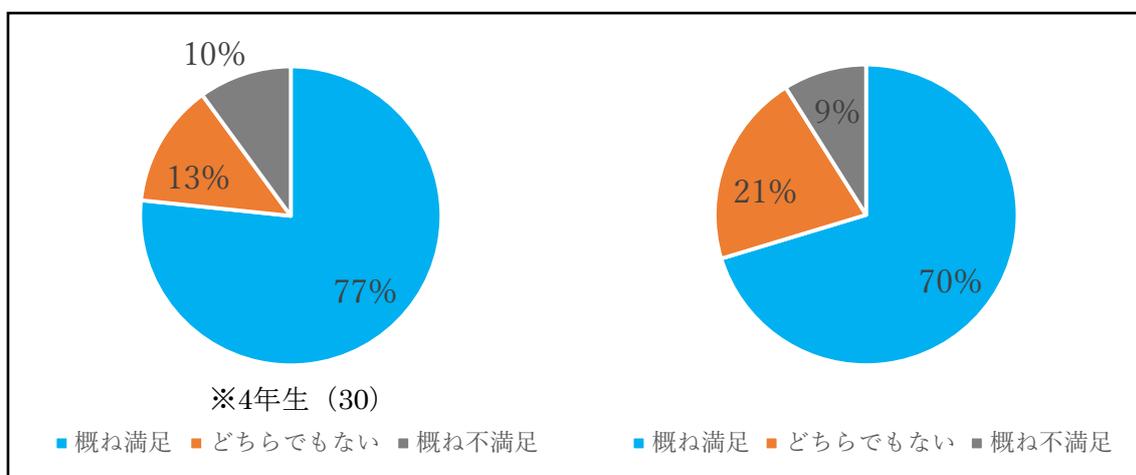


図12 ②進路(就職等)に対する支援

在校生 (100)

卒業生 (101)

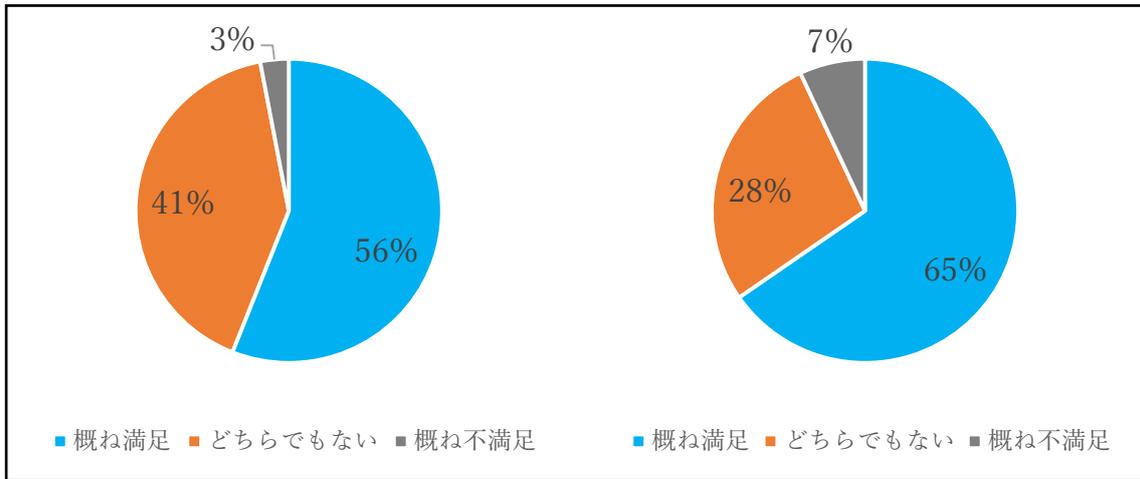


図 13 ③日頃の悩みや疑問等に対する相談体制

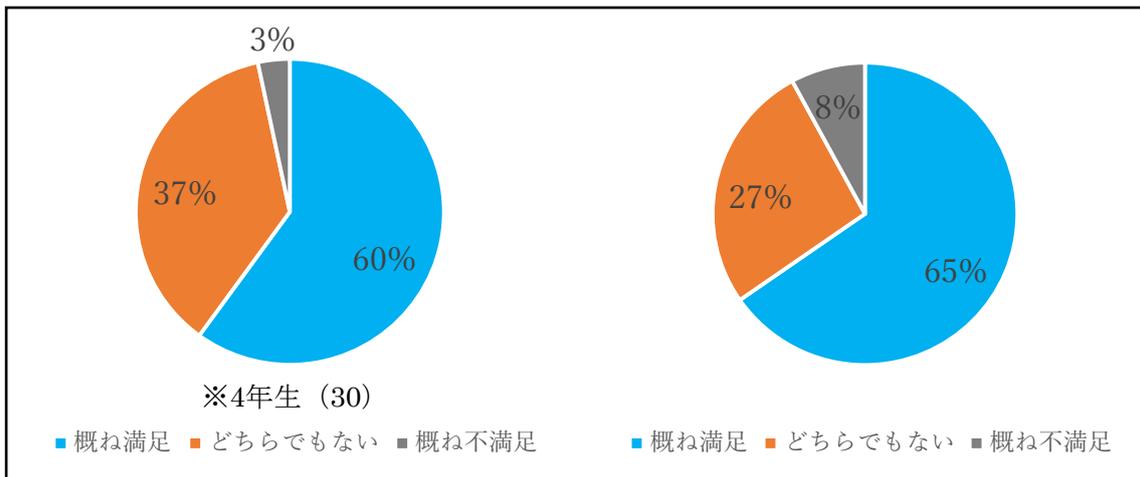


図 14 ④臨床実習中のサポート

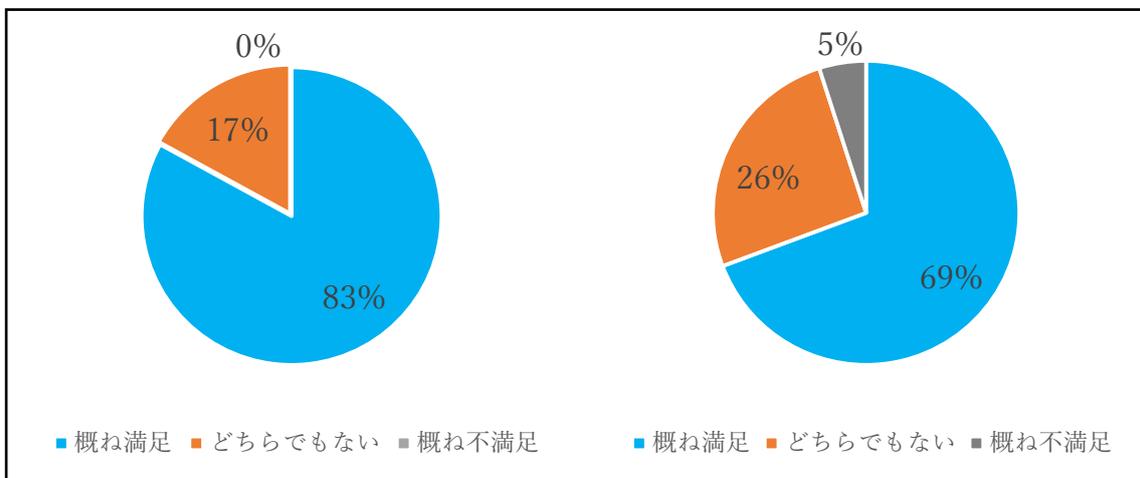


図 15 ⑤事務所の窓口対応

4. 学校の生活環境等について

①学校の施設・設備の満足度は、在校生で「概ね満足」が63%、「概ね不満足」が16%、卒業生で「概ね満足」が54%、「概ね不満足」が15%であった（図16）。②お店などの周辺環境の満足度は、在校生で「概ね満足」が53%、「概ね不満足」が21%、卒業生で「概ね満足」が38%、「概ね不満足」が34%であった（図17）。③アルバイト・課外活動の満足度は、在校生で「概ね満足」が65%、「概ね不満足」が3%、卒業生で「概ね満足」が51%、「概ね不満足」が9%であった（図18）。④学校の立地場所の満足度は、在校生で「概ね満足」が49%、「概ね不満足」が24%、卒業生で「概ね満足」が37%、「概ね不満足」が38%であった（図19）。⑤学校までの交通の便の満足度は、在校生で「概ね満足」が48%、「概ね不満足」が30%、卒業生で「概ね満足」が44%、「概ね不満足」が34%であった（図20）。

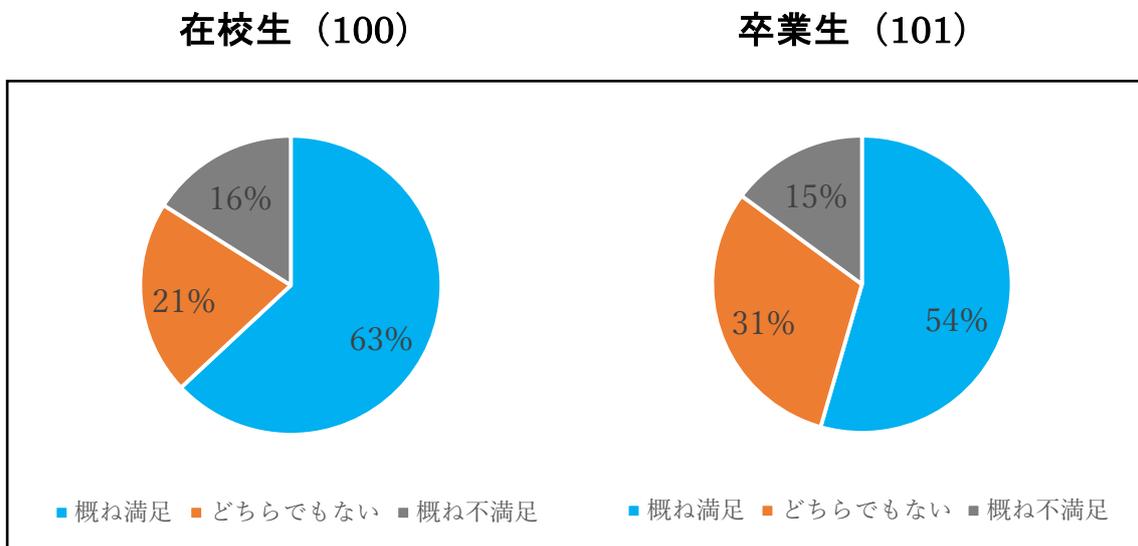


図16 ①学校の施設・設備

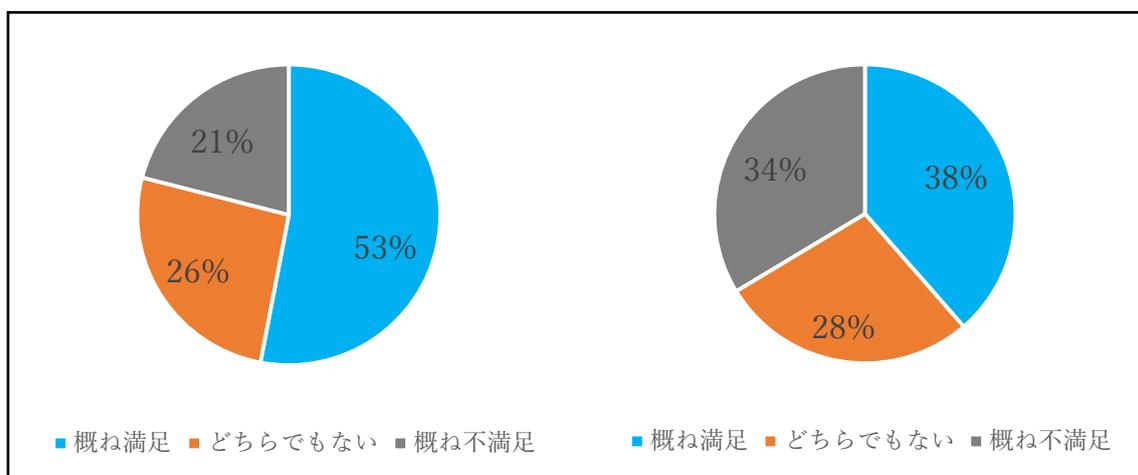


図17 ②お店などの周辺環境

在校生 (100)

卒業生 (101)

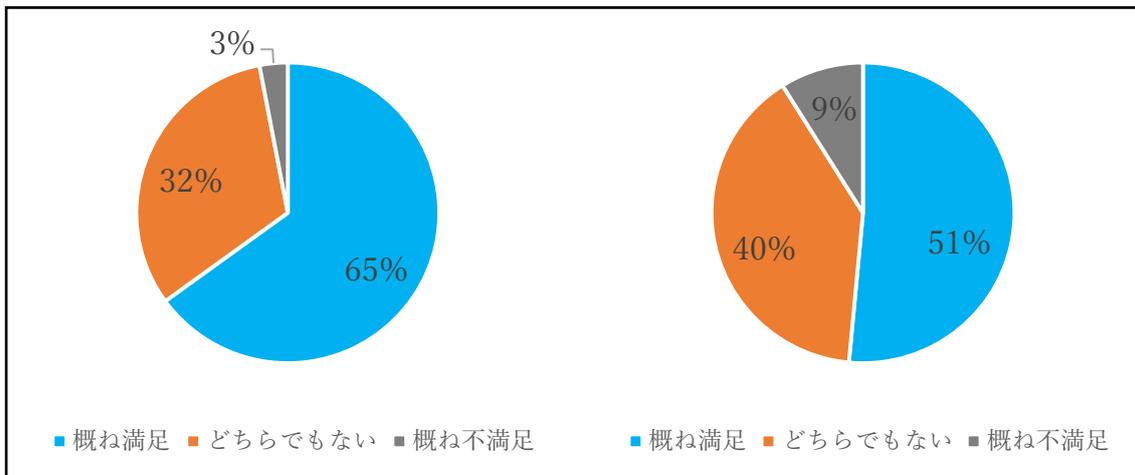


図 18 ③アルバイト・課外活動

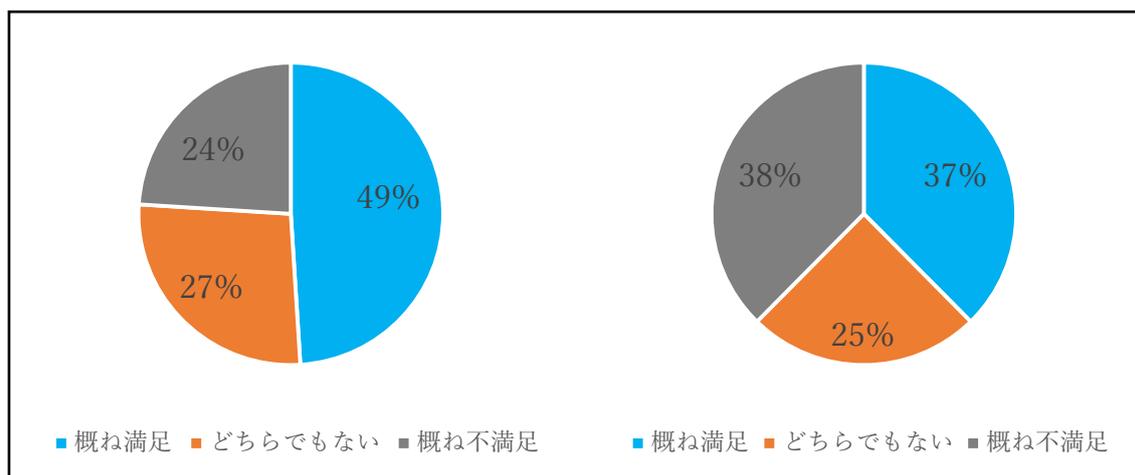


図 19 ④学校の立地場所

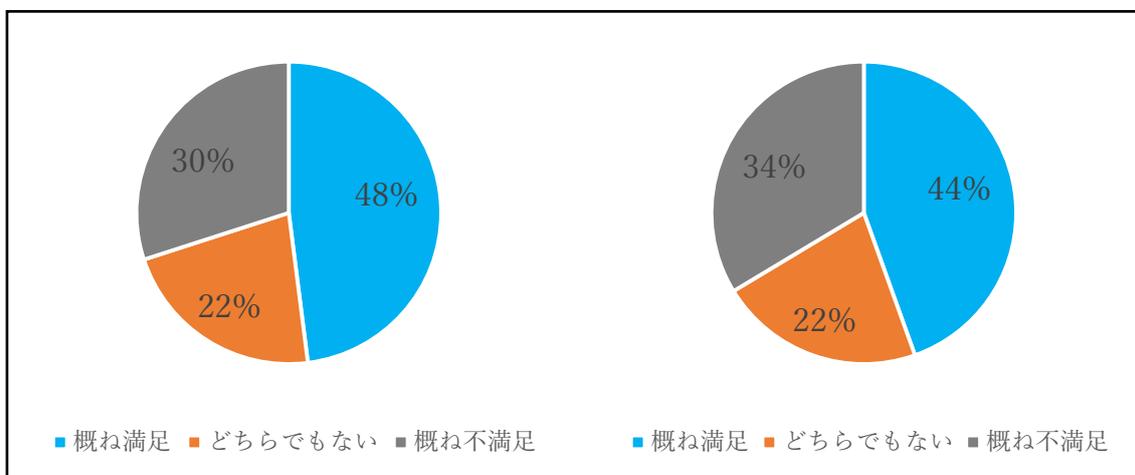


図 20 ⑤学校までの交通の便

5. その他

①授業料の満足度は、在校生で「概ね満足」が45%、「概ね不満足」が15%、卒業生で「概ね満足」が35%、「概ね不満足」が31%であった(図21)。
 ②学校の知名度や評価の満足度は、在校生で「概ね満足」が37%、「概ね不満足」が11%、卒業生で「概ね満足」が35%、「概ね不満足」が14%であった(図22)。
 ③在籍・卒業に対する総合的な満足度は、在校生で「概ね満足」が71%、「概ね不満足」が9%、卒業生で「概ね満足」が86%、「概ね不満足」が3%であった(図23)。
 ④玉野総合医療専門学校への推薦度は、在校生で「勧める」が51%、「勧めない」が22%、卒業生で「勧める」が54%、「勧めない」が10%であった(図24)。

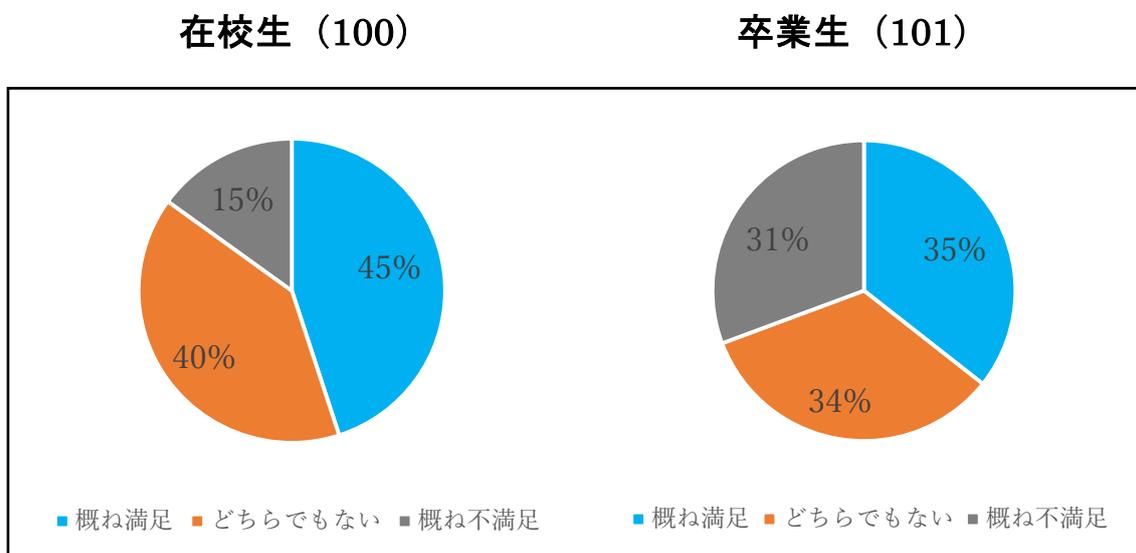


図21 ①授業料

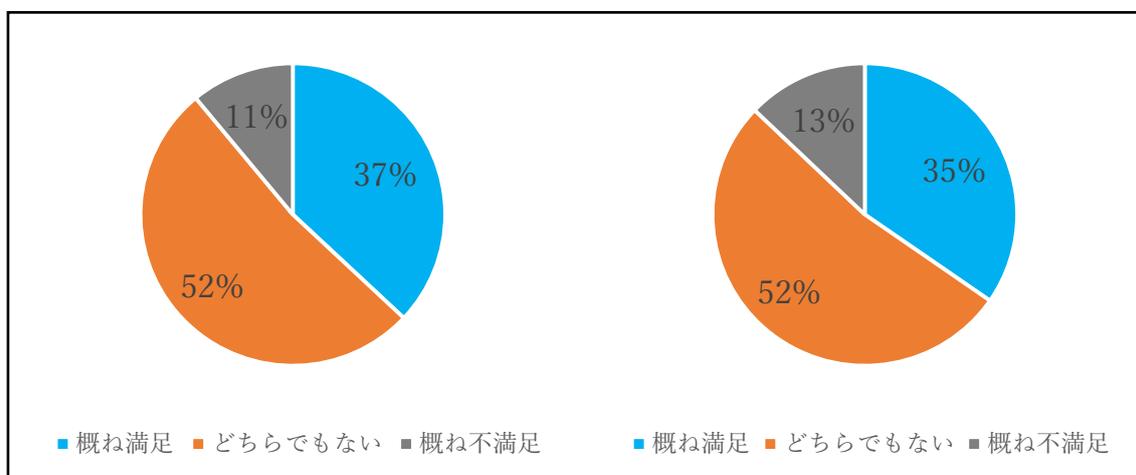


図22 ②学校の知名度や評価

在校生 (100)

卒業生 (101)

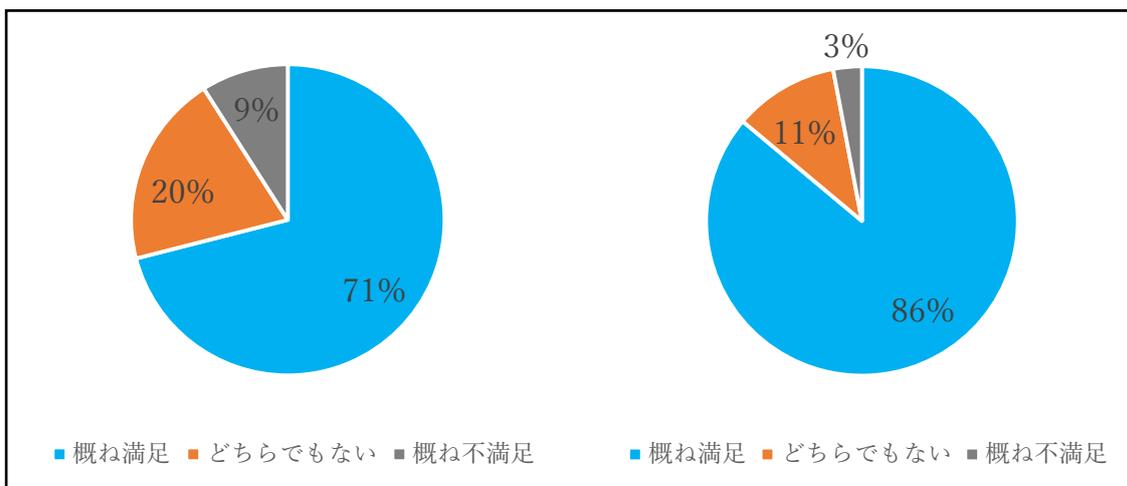


図 23 ③総合的な満足度 (在籍・卒業に対する)

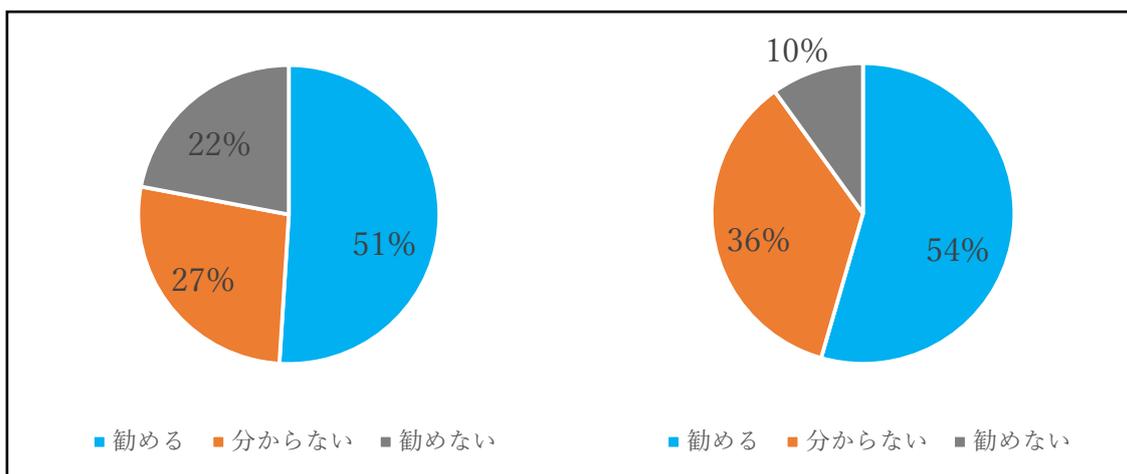


図 24 ④玉野総合医療専門学校の周囲への推奨度

考察

本研究は学生確保のための戦略の一環として、当校理学療法学科の在校生および卒業生の学校、学科に対する満足度調査を行い、そのフィードバックから当校の客観的な印象を分析し、学生に「選ばれる学校」になるための方策を検討することが目的である。24 項目の回答結果から、在校生および卒業生の当校に対する客観的評価をもとに以下に分析する。

1. 講義、資格、実習について

①カリキュラム (設置科目) については、在校生、卒業生ともに 70%以上の満足が得られており、学生の一定のニーズは満たしていることが推察できる。一方で、②教員の満足度は卒業生で 80%を超えている反面、在校生は 55%に留まっている。非常勤講師を含め

ているとはいえ決して高い数値とはいええないため、今後要因の検証が必要である。③の NSCA 資格の満足度は在校生（1～3 年）で 90%までのぼるが、実際に NSCA-CPT の認定校試験を受験した 4 年生および卒業生（20・21 期）は 51%まで落ち込んでおり、さらに不満足が 18%を占めている。これは、試験で不合格となり資格が取得できなかった者の存在、あるいは資格維持のためのランニングコスト（年会費、資格更新料および資格更新のための講習費等）が予想以上に高額（年間 35,000 円以上¹¹⁾）であることが影響していると考えられる。④臨床実習の満足度は在校生（4 年生）、卒業生ともに 70%以上の満足となっているが、理学療法士の実習形態から鑑みて、実習施設、実習指導者などの外部要因の影響が大きいと推察できる。特に、近年は実習指導者講習会の開催により、施設間の指導格差が埋まり、学生は概ね適切な実習指導が受けられている現状もあるだろう。⑤卒業論文研究指導の満足度は在校生（4 年生）で 70%と高いが、卒業生の満足度は 57%に留まり、不満足も 16%を占めている。当該科目は学生の論理的思考を養うためのカリキュラム配置だが、今一度指導の在り方も見直した方が良いのかもしれない。

2. 学生生活や人間関係について

①学校の友人関係の満足度は在校生、卒業生ともに 75%以上の満足が得られていることから、在学中に概ね良い人間関係が構築でき、卒業後もその関係が維持できていることがうかがえる。②教員との人間関係も在校生で 74%、卒業生で 84%が満足していると回答、さらに不満足は 2%に留まるため、一部学生を除いては教員と比較的良好な関係が築けているのではないだろうか。③学校祭などの学校行事の満足度はそれほど高くなく、満足は 60%程度であり、反対に不満足が 17～20%となっていた。コロナ禍で学校祭そのものが開催できなかった年度があったり、大学などの学校祭とのギャップ（規模やイベント内容の相違）があったりすることが影響しているのかもしれない。当校の学校祭は学生主体で開催している。予算の関係から、規模は小さくても満足度の高い学校祭にするためには、学校（教員）側のさらなる協力も検討すべきか議論の余地はある。④部・サークル活動については、「どちらでもない」を選択している割合が高く、そもそも部活動をしていない学生の回答が多数を占めていることが推測できる。⑤学生食堂の満足度はどちらも高く、特に卒業生においては 91%が満足と回答している。一方で、在學生は若干、不満足や「どちらでもない」が多いことから、運営会社やメニューの変更、価格の上昇などが影響しているのかもしれない。今後は、学生食堂をどれくらい利用しているか（利用率）の調査も必要であろう。

3. 各種支援体制について

①学業に対する支援の満足度はどちらも 70%前後で、予想よりもやや低い数値となった。特に成績下位者に対する個別のかつ具体的な学習面での支援がさらに必要なのかもしれない。②進路（就職等）に対する支援の満足度はどちらも 70%を超える結果となり、一定水準の支援はできていることがうかがえる。しかし、進路指導は個別性の要素が強く、今後も学生個々の状況に合わせた細やかな指導が必要不可欠である。③日頃の悩みや疑問等に対する相談体制の満足度は在校生 56%、卒業生 65%とそれほど高値ではなかった。先行研究によれば、4 年制専門学校において専任教員との日常会話頻度は学生の教員に対する

サポート期待と有意な関連がある¹²⁾としている。教員が日頃から話しかけやすい雰囲気を作ることや学生が相談しやすい窓口を設けることも重要であろう。④臨床実習中のサポートに対する満足度は60～65%で、これも予測を下回っていた。臨床実習そのものの満足度はそれほど低くなかったため、学生たちは教員のサポートがまだ十分ではないと感じているのかもしれない。現在は実習地訪問に加え、実習期間中に体調面などを回答するアンケートも導入しているが、さらに踏み込んだサポートを検討することも今後は必要であろう。⑤事務所の窓口対応については、在校生では満足83%、不満足0であり、高い満足度であった。一方、卒業生は69%が満足で14ポイントほど下回っている。対応したその時々の職員の違いで印象が変わっている可能性もある。

4. 学校の生活環境等について

①学校の施設・設備の満足度は在校生で63%、卒業生で54%であった。一方、不満足も15～16%いたことから、全体的にそれほど良い印象は持っていないことが予想できる。理学・作業療法学科は設置して25年目であり、建物や各種機器類の老朽化は否めない。しかし、限られた運営予算の中でハード面を全て一新することは極めて厳しい。現在使用中の物を大事に扱うことも（学生への扱い方の指導も含めて）重要である。②お店などの周辺環境については在校生、卒業生ともに予測通り満足度は低い結果（在校生の満足53%、不満足21%、卒業生の満足38%、不満足34%）となった。地方に設置された学校の宿命である。当校の問題というより、立地された地域の利便性や魅力、価値が向上しない限り、学生たちの満足度は上がらないだろう。③アルバイト・課外活動の満足度もそれほど高くなく、「どちらでもない」が多数を占めた。アルバイト自体していない学生も含まれているだろうが、前問の周辺環境にも関連してアルバイト先自体が少ないのかもしれない。④学校の立地場所、⑤学校までの交通の便についても低い満足度となった。前者の満足度（在校生の満足49%、不満足24%、卒業生の満足37%、不満足38%）および後者の満足度（在校生の満足48%、不満足30%、卒業生の満足44%、不満足34%）とも他の設問に比べて不満足の割合が高い。不満足の背景には主要駅からの直行バス（スクールバス）の廃止や、JR線の運行本数の少なさも影響しているだろう。先述したように、若者が居住することに対して地域の魅力が向上すれば環境や交通の便は変わるかもしれないが、学校の自助努力だけでは到底難しく、この状況を好転させることは容易ではない。

5. その他

①授業料の満足度も低い結果となった。（在校生の満足45%、不満足15%、卒業生の満足35%、不満足31%）数年前までは、大学や4年制専門学校において当校は中国・四国地方でもっとも低い授業料であった。しかし近年、近隣の大学や専門学校が学生を確保するために学納金の改定を行っているため、当校の授業料が相対的に低いとはいえない状況になっている。アンケート結果からは、当校の授業料にあまり納得していない学生の印象が浮き彫りとなった。②学校の知名度や評価については在校生、卒業生とも不満足と「どちらでもない」を合わせて60%を超えており、満足は36%前後に留まっている。当校の存在そのものやポジティブな評判がそれほど世間に広まっていないと学生たちは感じているのかもしれない。③（在籍・卒業に対する）総合的な満足度は、在校生、卒業生ともに

高い結果となった。特に卒業生は 86%が満足という結果となり、当校を卒業したことに満足している人が多いことが明らかとなった。一方で、④当校の周囲への推奨度は在校生、卒業生ともにそれほど高くなく、「勧める」と回答したのは在校生 51%、卒業生 54%に留まった。反対に「勧めない」も一定数認められ、在校生で 22%、卒業生で 10%が選択した。総合的な満足度は高いのに、周囲への推奨度がそれほど高くない結果となった背景には、前の設問で回答したネガティブな要因が影響していると考えられる。すなわち、学校の立地場所や周辺環境、交通の便の悪さ、老朽化した学校の建物や設備、安いと感じない授業料など、これらの事実が周囲へ積極的に勧めることを躊躇わせている理由かもしれない。

6. 総括と今後の展望および対策

24 項目のアンケート結果から、当校、当学科に対する在校生、卒業生の印象が明らかとなった。総合的な満足度は在校生、卒業生ともに高い結果となったにも関わらず、学校の知名度や評価についての結果からは好印象を持っているとは言い難く、さらに周囲への学校推奨度についても期待しているほど高い数値ではなかった。CM など大々的に広告を打っていない当校にとって口コミは学校認知度や評判の向上に重要であるが、現状では在校生、卒業生ともそれほど寄与していないのかもしれない。広報戦略としての口コミを広げるためには、今後は満足度が低い項目の満足度を向上させる対策が必要である。しかしながら、学校の立地場所や周辺環境、交通事情については学校の自助努力だけではどうにもならない。せめて、学校も含めて地域の魅力アップのために地元の地域イベントなどで積極的に協力する姿勢は必要である。学校、学科内で改善できること、すなわち学生に対する日頃の相談体制や学習支援、実習サポート、卒業論文指導（在り方も含めて）をさらに検討、充実させることで、当校に対する満足度を上げることは第一義的に重要であろう。さらに、口コミを広げるためには紹介者や被紹介者に対する物理的な特典（例えば金券の進呈や入学金の一部免除など）を準備する工夫があっても良い。学納金そのものを下げることは容易ではないが、コスト面で他校に比べてアドバンテージがなくなっている現在、兄弟割引や成績に応じた学費免除など、柔軟な料金体系を設定することで高校生や保護者に「お得感」を感じてもらうことも重要である。当校が「選ばれる学校」になるためには、上記のようにソフト面の改善はもちろんのことコスト面での対策も必要である。

とはいえ、この先 18 歳人口は減少し続ける見込みであり、養成校過多の状況がすぐに変わるともいえない。今後も各養成校で入学生確保の熾烈な競争が続いていくのは必至である。学校として生き残るためには、国内の限られた高校生を取り合うのではなく、今後は国外からの人材、すなわち留学生を取り込む努力も必要ではないだろうか。当然ながら、語学教育などハードルが高い面も予想されるが、人材確保のための先行投資としての価値は十分にある。ひいては、本邦の医療従事者の人材不足解消にも少なからず寄与できることが予想され、入学生確保の両面からもインパクトのある抜本的な改善策といえる。環境面で有利とはいえない当校の存続を第一に考えるならば、在校生の学校満足度を向上させたり、ポジティブな口コミを広げるなどの国内向けの広報戦略と平行して、今後は国外へ目を向けたグローバルな視点での人材確保戦略も重要ではないだろうか。

結論

今回、当校理学療法学科の在校生および卒業生の学校、学科に対する満足度調査を実施し、客観的な評価が明らかとなった。その結果より、以下のような分析をした。

1. カリキュラム，臨床実習，友人関係，教員との人間関係，学生食堂，進路に対する支援，さらに総合的な満足度の項目は概ね満足が高い結果となった。
2. 学校行事，相談体制，施設・設備，周辺環境，立地場所，交通の便，授業料，学校の知名度や評価の項目については低い満足度となった。
3. 当校の周囲への推奨度も 50%程度に留まったため，現状では在校生，卒業生ともポジティブな口コミにそれほど寄与していない可能性がある。
4. 今後は満足度が低い項目の満足度を向上させるだけでなく，紹介者や被紹介者への特典の準備，兄弟割引や成績に応じた学費免除など柔軟な料金体系を設定する等のコスト面での対策も必要である。
5. さらに踏み込んだ抜本的な改善策として，外国人留学生の受け入れなどを検討する必要もある。

謝辞

稿を終えるにあたり，本研究に快く協力していただいた在校生や卒業生の皆様や関係者の方々に深く感謝申し上げます。

文献

- 1) 厚生労働省：令和 6 年（2024）人口動態統計月報年計(概数)の概況. 厚生労働省ホームページ（PDF ファイル），<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai24/index.html>，（2025-08-07-14:34 参照）
- 2) 日本総研：Research Eye. No.2024-075（2024 年 12 月 3 日）少子化研究シリーズ No.13.（PDF ファイル），<https://www.jri.co.jp>，（2025-08-07-15:30 参照）
- 3) リクルート進学総研：18 歳人口予測大学・短期大学・専門学校進学率地元残留率の動向. リクルート進学総研マーケットレポート 2024（Vol.130 2025 年 2 月号）https://souken.shingakunet.com/research/pdf/2024_souken_report/2024_souken_report.pdf，（2025-08-07-13:10 参照）
- 4) 本多史明，藤原直，谷口奈瑠美他：理学療法学科在校生の入学動機についての調査. 玉野総合医療専門学校紀要 18 巻：32-41，2024
- 5) 日本理学療法士協会：理学療法士養成校一覧. https://www.japanpt.or.jp/about_pt/aim/training/（2025-12-26-12：30 参照）
- 6) 沖裕貴：大学における卒業時満足度尺度項目の開発. 教育情報研究 第 19 巻 4 号：11-18，2003
- 7) 田川隆博：学生満足度の分析. 名古屋文理大学紀要 第 11 号：81-86，2011
- 8) 豊野孝，高田豊，荒井秋晴他：九州歯科大学における大学理念の周知度および大学教育満足度に関するアンケート調査. 九州歯会誌 62 巻第 3-4 号：100-108，2008
- 9) 岩田考：大学生の生活満足度の規定要因. 桃山学院大学総合研究所紀要 第 40 巻 2 号：67-85，2015

- 10) 牧野幸志, 森裕紀子: 大学生生活への満足度に関する教育心理学的研究. 高松大学紀要 第 37 巻.: 59-72, 2002
- 11) NSCA ジャパン: NSCA ジャパン認定校. NSCA ジャパンホームページ, <https://nsca-japan.or.jp/certification/recertification/overview/>, (2025-12-26-14:40 参照)
- 12) 井村亘, 大森大輔, 大西正裕他: 4 年制専門学校理学・作業療法学科学生版教員との日常会話尺度の開発. 日本リハビリテーション教育学会誌 8 巻 4 号: 218-227, 2025

玉野総合医療専門学校での満足度調査（質問項目）

※大学における卒業時満足度尺度項目（文献6）を一部改変

項目1 講義、資格、実習について

- ① カリキュラム（設置科目）の満足度
- ② 教員の満足度（非常勤講師含む）
- ※③ NSCA資格の満足度 ※在校生および20期以上の卒業生対象
- ※④ 臨床実習の満足度 ※在校生（4年生）および卒業生対象
- ※⑤ 卒業論文研究指導の満足度 ※在校生（4年生）および卒業生対象

項目2 学生生活や人間関係について

- ① 学校の友人関係
- ② 教員との人間関係
- ③ 学校祭などの学校行事
- ④ 部・サークル活動
- ⑤ 学生食堂

項目3 各種支援体制について

- ① 学業に対する支援
- ※② 進路（就職等）に対する支援 ※在校生（4年生）および卒業生対象
- ③ 日頃の悩みや疑問等に対する相談体制
- ※④ 臨床実習中のサポート ※在校生（4年生）および卒業生対象
- ⑤ 事務所の窓口対応

項目4 学校の生活環境等について

- ① 学校の施設・設備
- ② お店などの周辺環境
- ③ アルバイト、課外活動
- ④ 学校の立地場所
- ⑤ 学校までの交通の便

その他

- ① 授業料
- ② 学校の知名度や評価
- ③ 総合的に考えて、玉野医専に在籍している、あるいは卒業したことに

回答方法：5件法

1.満足 2.どちらかといえば満足 3.どちらでもない 4.どちらかといえば不満足 5.不満足

最後に

- ④ 周囲に理学療法士を目指す人がいた場合、あなたは玉野総合医療専門学校を勧めますか？

回答方法：5件法

1.強く勧める 2.勧める 3.分からない 4.勧めない 5.絶対に勧めない